

握り手 1

教科書を見てただ真似して彫ろうとする前に、まずは自分自身の手を握ってみましょう。

ぱっと自分の手を握ってみたら、親指はどこにありますか？まずはこれを確認すること。親指は色々な位置に行くことが出来るから、親指の位置が分からないと彫り始めることが出来ません。

これから彫ろうとする握り手は親指が人差し指の前にありますね。その下に握った4本の指の指先、その下が手の平です。これで大きく高さに3段階あることが分かります。まずは大雑把にそんなことを頭に入れてから彫り始めましょう。

正面（手のひら側、甲側）と側面（親指側、小指側）の4面に正確に図面を書き込む。

正面木取り、側面の木取りをする。それはいつも一緒ですね。では木取りが出来たとして、どう彫り始めますか？彫刻は引き算だから、まずは一番高い所を確保する。つまり親指。従って親指を書き込み、そこに立ちこみを入れ、親指以外の所をすべて取ります。この時はまだ、どれくらいの厚み、というのは見えないので、とりあえず、親指という塊を分けられればOK。親指の居場所を確保したら、その下の4本の指の先端の位置を少し余裕をもって書き込み、立ちこみを入れ、手の平になる部分を取る。これで4本の指が確保され、3つの高さが出来、大雑把に正面から見た握った手の形になります。

文章で書くと逆にややこしい感じですが、とりあえず

- ①4面に図面を描く。
 - ②正面木取り、側面の木取りをする。
 - ③親指を書き込む
 - ④立ちこみを入れ親指以外の部分をすべて取り親指を確保する。
 - ⑤4本の指の先端の位置を書き込み、立ちこみを入れ手の平になる部分を取り、4本の居場所を確保する。
- 非常に単純な言葉で書きましたが、これに反応できたら、すごい。かなり明確に形が見えていますね。

